

水稻の作柄に関する委員会（平成23年産第2回）議事要旨

1 開催日時：平成23年10月4日（火） 13:30～14:55

2 開催場所：農林水産省大臣官房統計部第1会議室

3 出席者：【委員】

染英昭座長、黒田栄喜委員、中園江委員、前田修平委員、
山岸順子委員

【事務局】

生産流通消費統計課長、生産流通消費統計課総括 他

4 議事

平成23年産水稻の9月15日現在における作柄概況及び次期調査の実施に当たっての留意事項について

5 議事概要（○：委員からの発言）

事務局から平成23年産水稻の9月15日現在における作柄概況調査結果について説明後、次期調査（10月15日現在）の実施に当たっての留意事項等について各委員から意見・提言を受けた。

○ 本年9月の天候の特徴は3点あり、1つ目は、台風第12号及び第15号に加えて秋雨前線の影響で、沖縄を除いて全国的に降水量が多かったこと、2つ目は、上旬が北日本で、中旬は東・西日本で顕著な高温となったこと、3つ目は、東日本では中旬から下旬にかけて日照時間が多くなったものの、北日本、中でも北海道では少ない日照時間となったことである。

○ 1㎡当たり全もみ数が平年並みと見込まれている早場地帯では、登熟はおおむね順調に進むと見込まれるが、全もみ数がやや少ない地域では登熟への補償作用があるかどうかを含め登熟への影響に留意する必要がある。

○ 台風第12号及び第15号による倒伏や浸・冠水による被害が登熟や品質にどのような形で影響するかに加え、倒伏の状況によるコンバインロスへの影響に留意する必要がある。

○ 穂いもちあるいは斑点米カメムシがやや多いと予想されている地域では、病虫害の発生状況に加え、登熟及び品質への影響に注視する必要がある。

○ 登熟期間における日照不足や日照時間の変動が大きいということが登熟や品質にどう影響しているか留意する必要がある。

○ 倒伏について、本年は稲体が緑色の濃い時点に発生している印象を持っており、登熟自体へ影響している可能性もあると考えている。

- 台風や集中豪雨の影響による品質低下等に留意することに加えて、降水量が多くなれば病虫害の発生も多くなると考えられ、留意する必要がある。

上記意見を踏まえ、委員会としての意見をまとめ、その場で了承された。

(http://www.maff.go.jp/j/study/suito_sakugara/pdf/opinion.pdf)

(参考)

○会議及び議事録を非公開とする理由

今回開催した水稻の作柄に関する委員会については、当年産の水稻の作柄に関して、学識経験者等から専門的な見地から意見を聴くために開催している。その内容は、個人・地域における水稻の品質、収量等に関する事項等、特定の個人若しくは団体に不当な利益若しくは不利益をもたらす恐れがある事項が含まれること等から、会議及び議事録を非公開としている。